

# 高まる日本語学習熱

日外協は ASEAN 各国の日本語スピーチ・コンテスト優秀者を毎年秋に日本へ招き交流を行っている。ブルネイとラオスでは今年の代表が決定した。

## ブルネイ

### 過去から未来へ つながるコンテスト

在ブルネイ日本国大使館 専門調査員  
辻塚秀幸

3月13日(水)、首都バンダル・スリ・ブガワンにおいて、在ブルネイ日本国大使館、ブルネイ教育省、およびブルネイ大学言語センター共催による第32回日本語弁論大会が開催された。

第32回大会では、中高生のグループが日本について英語でプレゼンテーションを行う「プレゼンテーション部門」と、初級レベル、上級レベルに分かれた参加者が日本語でスピーチを行う「スピーチ部門」が実施された。プレゼンテーション部門では、日本語の「かわいい」を取り上げ、発表者自身がかawaiiと思うものを楽しそうに紹介したグループが1位となった。また、スピーチ部門では初級レベルに9人が参加、弱っていた金魚を大切に育てた経験と学び

についてスピーチを行ったシェードンさんが1位になった。14人が参加した上級レベルでは、いつか日本に行ってみたいとの思いで日本語の勉強をコツコツと続けてきた体験を語ったナビラさんが1位となった。

今回は、学校の先生となった第30回大会の優勝者が日本語クラブを開設し、そのクラブの学生が「浦島太郎」をテーマにパフォーマンスをしてくれた。また、前回大会の優勝者もゲストスピーカーとして、日外協の日本語スピーチ発表会に参加した際の経験を紹介。これまでのコンテスト参加者が新たなつながりを広げられていることは、大会運営者として非常に頼もしくまた喜ばしい限りである。

ブルネイは人口約40万人の比較的小さな国で、日本語を勉強できる機関も限られている。しかしながら、アニメや日本食、旅行などがきっかけとなり日本に興味をもつ人々は多く、日本語学習者も徐々に増えている。参加者数も、例年の週末開催から平日開催に変わったにもかかわらず、スピーチ部門は昨年比約2倍となった。また、昨年12月に実施された日本語



スピーチ部門(上級レベル)優勝者のナビラさん



大会後の集合写真